2013 年 3 月 14 日

《横浜市感染症臨時情報》風しん第 11 報

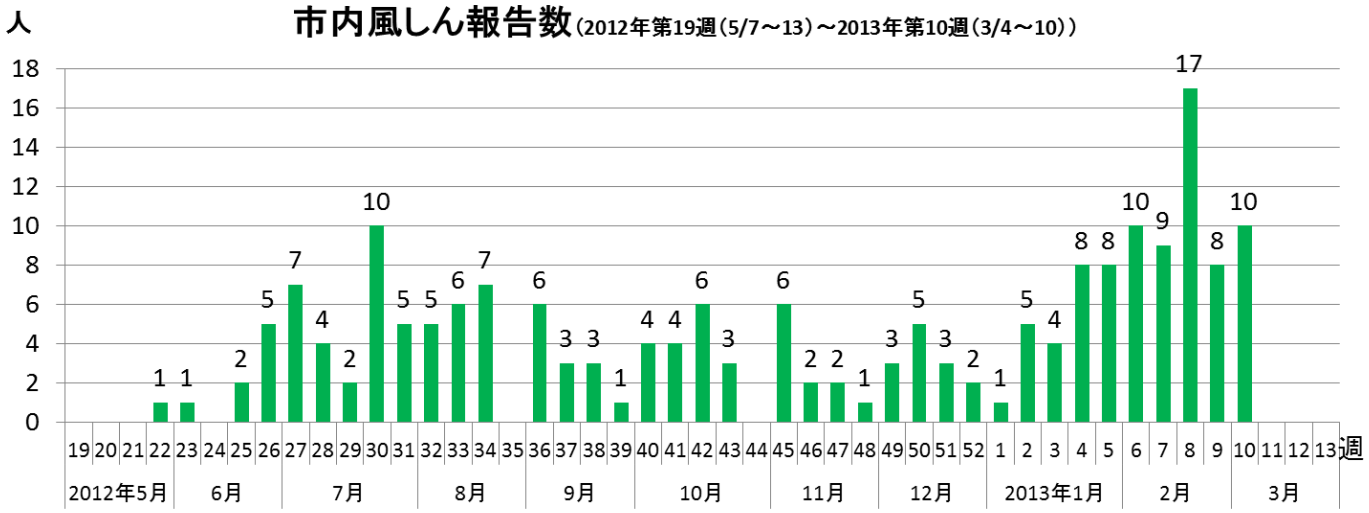
風しんの報告数がさらに増加しています。

◇ **妊婦、特に妊娠初期の女性**が風疹にかかると、**障がいをもった赤ちゃんが生まれる可能性（先天性風しん症候群）**があります。
◇ 風しんは**春から初夏**にかけて流行することが多く、これからさらに注意が必要です。
◇ **患者の多くは成人男性**で、重症例も報告されています。
◇ 先天性風しん症候群の予防には、**妊娠を希望する女性**だけでなく、**男性の予防接種が重要**です。麻しんの免疫を確実にする効果もありますので、**麻しん・風しん混合ワクチン（MR ワクチン）**での接種をお勧めします。

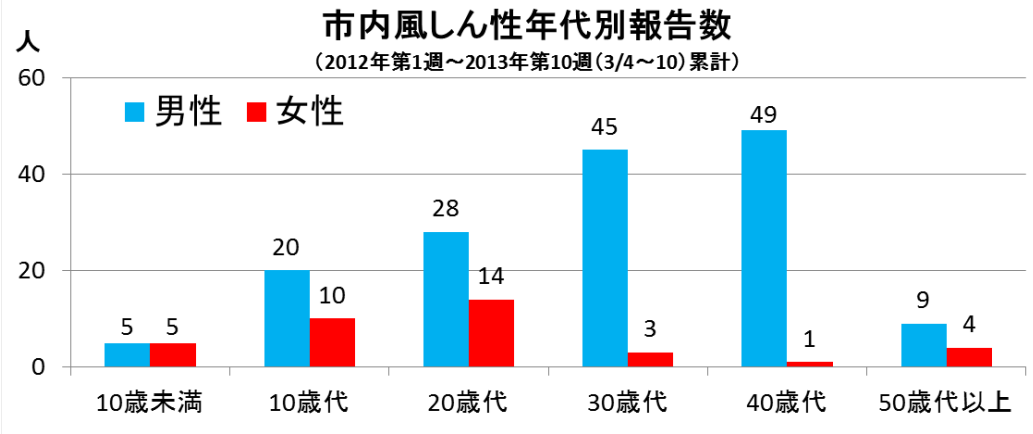
風しんの主な症状は、発熱とほぼ同時に出る発疹、耳の後部のリンパ節の腫れなどです。3日前後で解熱とともに発疹も消失します。気になる症状が現れたときには、必ず受診しきちんと診断を受けましょう。

- 風しんについて http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/rubella1.html
- 風しん Q&A（国立感染症研究所）http://www.nih.go.jp/niid/ja/rubellaqa.html
- 先天性風しん症候群について http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/crs1.html
- 先天性風しん症候群（CRS）の報告（2013 年 1 月 30 日現在）
  http://www.nih.go.jp/niid/ja/rubella-m-111/700-idsc/3158-rubella-crs-20130130.html
- 風疹髄膜脳炎を発症した成人男性の1例
  http://www.nih.go.jp/niid/ja/rubella-m-111/rubella-iasrs/3319-pr3982.html

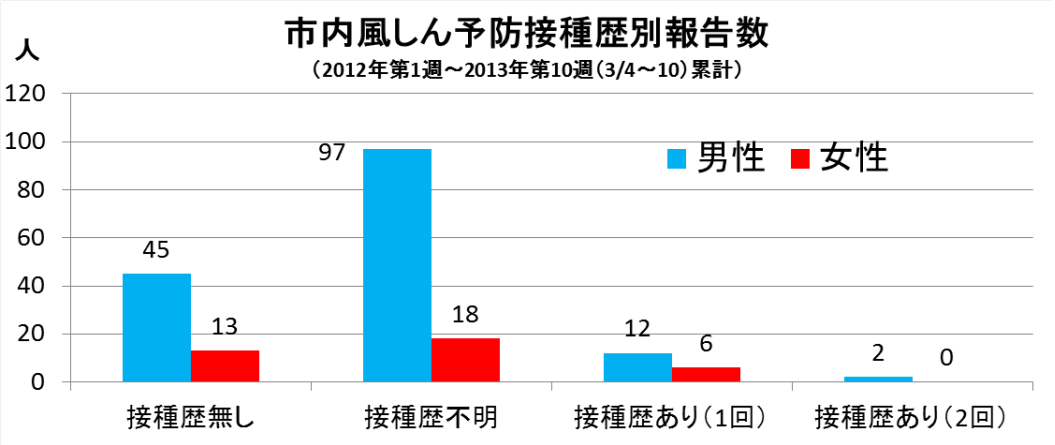
1 市内流行状況：昨年から流行していますが、今年に入り、さらに患者報告数が増加傾向です。



2 届出患者の性・年齢別状況：患者のほとんどが男性（80.8%：2012 年第 1 週から 2013 年第 10 週までの累計患者 193 人のうち 156 人が男性）で、特に 20～40 歳代の報告数が多くなっています。



3 予防接種の接種状況：予防接種歴が確認されたのは 20 人のみで、他はすべて予防接種歴が無いか、不明でした。特に、男性では 91.0%で予防接種歴が確認されませんでした。



4 風しんの予防接種について

○定期予防接種（風しんは、予防接種法による定期予防接種の対象疾病です。）

現在実施している定期予防接種では、「麻しん・風しん混合ワクチン」（MR ワクチン）を 2 回接種します。

標準的な接種期間は以下のとおりです。

麻しんは感染力が強く、重症になります。麻しん撲滅のためにもＭＲワクチンで受けましょう!

1 期：1 歳以上 2 歳未満
2 期：5 歳から 7 歳未満で小学校就学前 1 年間
3 期：13 歳となる日の属する年度（中学 1 年生相当）
4 期：18 歳となる日の属する年度（高校 3 年生相当）

（3 期及び 4 期は、既接種 1 回のみの方を対象とした平成 25 年 3 月 31 日までの時限的措置です。）

○任意予防接種

・風しんの定期予防接種は昭和 52 年から開始されましたが、当時は対象が中学生の女子のみであったため、現在 30 歳代後半以上となる男性は定期予防接種の機会がありませんでした。また、平成 6 年に予防接種法が改正された際、男女ともに接種対象になりましたが、現在の 20 歳代から 30 歳代前半の男性の接種率は低く、これらのことが現在の流行に影響していると考えられます。妊娠中の女性が風しんに感染し、生まれてくるお子さんが先天性風しん症候群になることを防ぐため、周囲の大人（特に男性）が予防接種を受けることが大切です（任意予防接種となります）。

・風しん予防接種の記録がない、あるいは風しん HI 抗体が陰性または低抗体価（HI 価 16 以下）の方は予防接種を受けることをお勧めします。

（風疹流行および先天性風疹症候群の発生抑制に関する緊急提言 http://idsc.nih.go.jp/disease/rubella/rec200408rev3.pdf）

・妊婦が風しんの予防接種を受けることはできません。ワクチン接種後は 2 か月間の避妊が必要です。

【お問い合わせ先】横浜市健康福祉局健康安全課　TEL 045（671）2463
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課　TEL 045（754）9815